

**留学先国名** : オーストラリア

**留学先学校名** : オーストラリア国立大学

**留学期間** : 平成 27 年 2 月 9 日～27 年 6 月 20 日

今回の留学では、オーストラリアにあるオーストラリア国立大学で 1 学期間自分の専門科目を学んだ。留学を通し、兼ねてからの大きな目標であった専門科目の習得と語学力の向上以外にも様々な面で刺激を受け、成長することができた。例えば、派遣先大学で多くの学生や先生方、現地の方と交流したことで異なるものの考え方や価値観に触れることができ、世界観が広がった。加えてこのような経験を通して自己を見つめたことにより、自分の大学卒業後の進路についても深く考え、将来の進路形成にも役立った。以上で述べた留学を通しての自己の成長・変化は大きく学業面・精神面の 2 点に分けることができる。まず学業面に関して、派遣先大学での勉強を通して新しい勉強に対する取り組み方や考え方を学んだ。私は日本で政治学を専攻し、派遣先大学でも国際関係学や経済学など、自身が日本で勉強していた科目を勉強した。派遣先で履修していた科目の中には予備知識があったものもあったが、留学当初はそれらを十分に活かしきれなかった。原因は、それまで知識のインプットには慣れていたがアウトプットとなかなか習得したことが出せずにいたことである。しかし大学でのディスカッションやレポート作成を通して次第にアウトプットにも慣れ、授業に余裕を持って追いつくことができるようになったほか、配点の高い科目に効率よく時間を割けられるようになった。派遣先大学で知識のインプットとアウトプットのどちらにも力を入れて勉強に取り組んだことで、知識の習得とその発揮の重要性を認識した。今後は勉強やその他日常生活でも今回習得したことが自分で実際に実践できるよう、意識しながら何事にも取り組みたい。

また精神面に関して、今回の留学を通して何事にも楽しんでかつ根気強く取り組む姿勢が身についた。派遣先大学では学生が勉強以外にもスポーツや課外活動など、様々なことに精力的に取り組んでいた。私にとって今回の留学は初めての海外生活であり、生活で慣れないことが多かった。それに加えて専門科目を勉強しなければならないということもあり、最初のうちは緊張と不安から力が入りがちになっていた。しかし周囲の友達が私に対して頑張れというよりも楽しめという励ましの言葉をかけてくれたほか、時には相談にも乗ってくれた。そのおかげで留学生生活を緊張せずに楽しむことができ、楽しむことができたおかげで様々なことに取り組んでみたいという意欲がわいた。加えて自分に課された課題を楽しむだけでなく、根気強くそれに取り組む姿勢も身についた。留学中は生活環境以外にも、学校の制度もほとんど日本で在籍している大学のものと違い、自分から動き続けなければ何もわからないという状況であった。留学でどのぐらい英語力が伸びているのか、どれほど専門の勉強が順調に進んでいるのか不安になる時期もあったが、結果を求めすぎずできることを根気強く行ったことでさらに忍耐力がついた。今後忙しい状況や不慣れな環境で何かに取り組まなければならない時が来たとしても、留学中に得た楽しむ精神と根気強く物事にあたる姿勢とを忘れずに精力的に取り組みたい。

このように、留学を通して学業面でも精神面においても成長することができ、その成長は今後の進路に対

する意識にも大きな影響を与えた。留学前、私は仕事を通して日本と世界の橋渡しをしたいと考えていた。留学を終えてもその目標は変わっていないが、日本と世界の橋渡しをするとはどういうことなのか、なぜそのような仕事がしたいのかという目的についてより掘り下げて考えることができた。留学中、私は国際関係に携わる仕事が外国へのあこがれだけでは務まらないという大事な事を学んだ。観光客としてではなく一人の現地大学生として派遣先国に滞在したことで、美化や卑下することなくありのままの日本とオーストラリアに向き合うことができた。留学前は自分の中でオーストラリアに対する印象や海外と比較した日本の印象を作り出しており、それらに縛られることが多かった。しかしオーストラリアでの生活や勉強を通して、現地で体験しなければわからないオーストラリアのことや、それまで知ることが難しかった現地から見た日本の印象を知ることができ、徐々に留学前の縛りから解放された。この経験を通し、日本と外国を繋ぐ仕事は感情的な外国へのあこがれだけでは成り立たず、冷静に日本と外国の良さや改善点を俯瞰して、それをお互いが高めるように誘導することであると痛感した。実際、派遣先大学では日本を含むアジア太平洋地域の研究が盛んであり、立地上アジアからの学生が多く在籍していたため、日本が関係したアジア地域の問題について考える機会が多かった。日本人とは異なる視点を持った学生からの意見は有益であり、今後日本がアジアを含む国際社会の問題に取り組むにはこのような別の視点からの意見が大変重要になると考えた。これら留学から得たことを踏まえ、将来は仕事を通して大阪府、日本の国際化に貢献し、お互いの地域・国家が互いに高め合うことのできる関係を築く手助けをしたい。

大学在籍中の留学について、私は留学中に加え、その後の生活で留学を通して得た経験が活かせるかどうかということも留学に係る重要な要素だと考えている。日本の大学に在籍しながらの留学は長くて1、2年と、終わってしまえば短く感じる期間である。短い留学期間で得た経験や人脈がその後の生活に活かされるよう、今後留学を検討している学生には学業と生活共に充実した留学を経験してほしい。